

市議会だより



大室山

発行 伊東市議会 議長 土屋 進
編集 議会報編集委員会
伊東市議会事務局
電話32-1981(直通)FAX38-6916



伊東八景御膳
～(秋の膳)～

地産地消の推進を図るため、地場新鮮食材八品
を使用し、官民一体で創作（現在販売はしておりませ

伊東の味力

みりよく

表紙は「いとう」の文字に大室山・小室山を配し、図案化したものです。
つばきは伊東市の花木で、昭和42年8月10日、市制施行20周年を記念し、市民から公募して制定されました。

小室山

主な内容

- 12月定例会の概要 【P.2】
- 一般質問（10議員が登壇） 【P.4】
- 常任委員会だより 【P.11】
- 議場見学 【P.12】

市議会会議録は、市役所、図書館、
各コミュニティセンターにあるほか、
ホームページでもごらんになれます。
(12月定例会会議録は、2月中旬
発行・公開の予定です)

平成23年12月定例会

25件の議案等を審議、決定

12月定例会を12月1日から12月14日までの14日間の会期で開会しました。

■市議会12月定例会で審議した議案等

議案番号	件 名	概 要	提出者	審議結果
市認第16号	平成23年度伊東市一般会計補正予算（第4号）専決処分の報告承認について	平成23年9月21日の台風15号により発生した災害を復旧するための農林水産施設災害復旧費、公共土木施設災害復旧費、教育施設災害復旧費などの追加が主なものであり、財源として財政調整基金繰入金、災害復旧費国庫補助金を充てたほか、予備費の減額など、歳入歳出に6,000万円を追加する専決処分を平成23年10月17日に行ったことの報告承認	市長	全会一致で承認
市議第16号	機構改革に伴う関係条例の整備に関する条例	平成24年4月1日から施行する機構改革に伴い、伊東市部設置条例、伊東市総合計画審議会条例など関係条例（全6条例）を一括改正	市長	全会一致で可決
市議第17号	伊東市議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例等の一部を改正する条例	障害者自立支援法の一部改正に伴い、伊東市議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例及び伊東市消防団員等公務災害補償条例に項ずれが生ずるための改正	市長	全会一致で可決
市議第18号	伊東市災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例	東日本大震災の被害が甚大であったことによる災害弔慰金の支給等に関する法律の一部を改正する法律が公布・施行され、3月11日以後に生じた災害から適用されることとなったことに伴い、死亡者に係る配偶者、子、父母、孫または祖父母のいずれもが存しない場合、死亡当時、死亡者と同居し、生計を同じくしていた兄弟姉妹を支給対象とするための改正	市長	全会一致で可決
市議第19号	伊東市環境美化センター更新改良整備工事請負契約の締結について	契約金額：29億7,129万円 契約の相手方：株式会社プランテック 工期：契約議決の日～平成27年3月10日	市長	全会一致で可決
市議第20号	伊東市消防本部救助工作車購入契約の締結について	契約金額：1億2,810万円 契約の相手方：帝商株式会社横浜営業所 納入期限：平成24年3月30日	市長	賛成多数で可決
市議第21号	伊東市介護予防拠点施設の指定管理者の指定について	社会福祉法人伊東市社会福祉協議会を指定 指定の期間：平成24年4月1日～平成29年3月31日	市長	全会一致で可決
市議第22号	伊東市老人憩の家城ヶ崎荘及び城ヶ崎デイサービスセンターの指定管理者の指定について	社会福祉法人城ヶ崎いこいの里を指定 指定の期間：平成24年4月1日～平成27年3月31日	市長	全会一致で可決
市議第23号	市道の路線認定について	法定外公共有（赤道）で生活道路として常時利用されている道路、認定要件を満たしており市に寄附された道路、都市計画法の開発行為により道路整備され市に移管された道路など25路線1,773.2mの市道の路線認定	市長	全会一致で可決
市議第24号	平成23年度伊東市一般会計補正予算（第5号）	自立支援給付費、生活保護扶助費、インフルエンザなどの予防接種委託料、消防自動車購入費の追加、特別措置法に基づき支給額が変更されたことに伴う10月からの子ども手当、国の循環型社会形成推進交付金の交付額が減額されたことに伴う環境美化センター更新改良整備工事請負費の減額などのほか、財政調整基金、減債基金への積み増し、人件費の整理、勧奨退職者増加等に伴う退職手当の増額、上記の平成23年度伊東市一般会計補正予算（第4号）において災害復旧費のための財源とした予備費の増額など、歳入歳出に9億1,818万円の追加	市長	全会一致で可決
市議第25号	平成23年度伊東市国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）	歳出における保険給付費の一般被保険者高額療養費の増額、後期高齢者支援金の減額など、歳入における国庫負担金の一般被保険者高額療養費の増額、後期高齢者支援金等の減額など、歳入歳出に311万円の追加	市長	全会一致で可決
市議第26号	平成23年度伊東市介護保険事業特別会計補正予算（第2号）	歳出における居宅介護サービス給付費、地域密着型介護サービス給付費、施設介護サービス給付費等の増額など、歳入における給付費の増に伴う国庫負担金、支払基金交付金、県負担金などの増を見込むとともに一般会計繰入金、基金繰入金などの増額など、歳入歳出に5億6,472万8,000円の追加	市長	全会一致で可決

市 議 会 だ よ り

議案番号	件 名	概 要	提出者	審議結果
市議第27号	平成23年度伊東市後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）	歳出における後期高齢者医療療養給付費負担金の増額、平成22年度分の後期高齢者医療保険料負担金の追加など、歳入における療養給付費繰入金金の増加などによる一般会計繰入金、前年度繰越金金の増額など、歳入歳出に6,899万7,000円の追加	市長	全会一致で可決
市議第28号	平成23年度伊東市水道事業会計補正予算（第2号）	台風15号による水道施設の被害復旧費、職員の勧奨退職による退職給与金の増額など収益的支出に2,740万5,000円の追加、水道管路情報システム整備業務委託料の増額など資本的支出に830万5,000円の追加	市長	全会一致で可決
市議第29号	伊東市一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例	一般職の職員の給料表について全職員平均給料月額にして705円、0.22%の引き下げ、現給保障対象職員に関し、調整割合を100分の99.83から100分の99.34に改めるとともに、経過措置額について1万円を上限としてその2分の1を減額するための改正	市長	全会一致で可決
市選第5号	教育委員会委員任命の同意について	佐藤潤一氏（川奈）再任	市長	全会一致で任命に同意
市選第6号	固定資産評価審査委員会委員選任の同意について	稲葉衛氏（八幡野）再任	市長	全会一致で選任に同意
発議第5号	防災会議に女性の視点を取り入れることを求める意見書	内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、内閣府特命担当大臣（防災担当）、内閣府特命担当大臣（男女共同参画担当）、衆議院議長及び参議院議長に提出	議員8名	全会一致で可決
発議第6号	円高から中小企業を守る対策を求める意見書	内閣総理大臣、財務大臣、経済産業大臣、厚生労働大臣、衆議院議長及び参議院議長に提出	議員8名	全会一致で可決
発議第7号	災害に強い日本の構築に向けた社会資本整備を求める意見書	内閣総理大臣、財務大臣、文部科学大臣、国土交通大臣、内閣府特命担当大臣（防災担当）、衆議院議長及び参議院議長に提出	議員8名	全会一致で可決
発議第8号	鳥獣被害防止対策の充実を求める意見書	内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、農林水産大臣、環境大臣、衆議院議長及び参議院議長に提出	議員8名	全会一致で可決
発議第9号	視覚障がい者からテレビを遠ざけない地上デジタルテレビ放送を求める意見書	内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、厚生労働大臣、衆議院議長及び参議院議長に提出	議員8名	全会一致で可決
発議第10号	国民生活の安心と向上を図る各種基金事業の継続を求める意見書	内閣総理大臣、財務大臣、文部科学大臣、厚生労働大臣、内閣府特命担当大臣、衆議院議長及び参議院議長に提出	議員8名	全会一致で可決
発議第11号	漁業用軽油に係る軽油引取税の免税措置等に関する意見書	内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、農林水産大臣、経済産業大臣、衆議院議長及び参議院議長に提出	議員8名	全会一致で可決
陳情第5号	漁業用軽油に係る軽油引取税の免税措置等に関する意見書採択を求める陳情	陳情者：いとう漁業協同組合 代表理事組合長 高田充朗氏	採択すべしとした委員会報告のとおり全会一致で採択	

本会議で
行なった討論
(概要)

■伊東市環境美化センター
更新改良整備工事請負契約の締結について

《賛成》森 篤議員

ゴミ問題を制する者は、都市問題を制すると言われるが、焼却場は、ゴミ問題と密接にかかわる大事な都市施設である。

市民の生活に密接にかかわる施設であることから、速やかに事業者を選定し、選定された後は、事業者を督励して、厳正、的確に工事を行う必要がある。

そのための所要の手だてを講じることもまた大事である。

また、極めて多額で大きな事業であることから、事業の進捗状況については、適宜、市民に公開、説明すべきと提言し、賛成する。

■伊東市消防本部救助工作車購入契約の締結について

《反対》森 篤議員

事務事業は予算に基づき

執行されることが大原則であり、補正予算成立前に入札が執行され、仮契約が締結されている議案の採決を、補正予算が成立した日に行うこと自体、この大原則から著しく逸脱しており、極めて異常な事態と考える。

本件は、議会の議決を得なければならぬ重要な契約であることから、契約締結は厳正に執行されなければならない。総務委員会における一連の当局答弁から、議会の議決を得る前に本事業が実質的に開始されていることは明らかであり、契約締結にかかわる一連の経過について厳正を欠くと判断し、反対する。

《反対》重岡秀子議員

救助工作車Ⅲ型は救助工作車の中でも高度な資機材を積んでおり、東海地震などが心配される中、このような救助工作車を配備する必要性は理解する。

しかし、補助基準額に係る補助は国が二分の一、県が六分の一で、残る費用のほとんどは市債である。

市財政を切り詰めている現状にかんがみ、市の財政負担と購入の意義等について臨時会等で十分な審議の上で補正予算を決定し、その後契約議案の提出をすべきものであり、今議会で予算と契約議案が同時に提出されることはあってはならないことと考え、反対する。

《賛成》※民主党・刷新の会

さまざまな事情があったにせよ、本契約議案について、入札から仮契約、本契約に至るまでの過程において、行政と議会の関係上、不適切な対応があった事実と法令の趣旨を軽視した行為は看過できない。

しかしながら、災害救助活動の現場において大変必要性の高い救助工作車の購入については、配備の緊急性にかんがみ、事業執行の実質的な正当性が損なわれるものではないと考える。今回の事務手続の進め方について当局に深い反省を促し、こうしたことを慣例化させないことを条件とし、賛成する。

※会派構成議員～四宮和彦議員・◎鈴木克政議員・浅田良弘議員（議席順、◎＝会派代表者）

一般質問

10議員が登壇／市政全般について質問

（登壇順に掲載）

ジオパーク事業推進計画と伊豆観光圏を活用した伊豆半島への誘客対策について



正風改革クラブ
佐々木 清議員

静岡県川勝知事も後押しするジオパークについて、伊豆地区推進協議会の事務局である伊東市として、現在の進捗状況と今後の方向性について伺う。

さらに、平成二十二年二月議会の一般質問において、伊豆観光圏を推進すべきと申し上げた私の立場から、昔から言い続けられてきた「伊豆は一つ」の実現に向け、伊豆半島への具体的な誘客対策について伺う。

ジオパーク認定に向けた事業展開や滞在等を拡大させる取り組みを圏域一体となして実施する

市長

伊豆半島ジオパークにつ

いては、来年度に日本ジオパークの認定、その後の世界ジオパークの認定に向けて、着実に事業展開を図っているところである。

今後、ジオパークに認定されることにより、豊かな自然や温泉などの観光資源に恵まれた伊豆半島の魅力が発信され、国内外から多くの観光客が訪れることが期待される。

伊豆観光圏については、伊豆ならではの素材を活用した商品開発や観光情報の発信等を行い、圏域内における滞在や宿泊を拡大させる取り組みを積極的に実施するとともに、着地型・体験型の観光商品の企画、造成、販売や人材育成等を担うプラットフォームの形成に向け、地域が一体となり取り組んでいるところである。

『その他の質問項目』

■観光地伊東の今後について

・手石海丘を観光資源とする考えについて

・年間を通じて観光イベントなどの企画や情報発信を協議する常設機関の設

置について

■伊東市のまちづくりの方向性について

・人口減少を食い止めるための雇用対策について
・市民グループが一堂に集えるコミュニティセンターの開設について
・「地域医療を守る」ため、病院運営に関し話し合う場の設置について

■介護保険事業の方向性について

・地域包括支援センターの運営方法について
・特別養護老人ホーム入所待機者への対応について
・拠点施設の整備と介護職員の交流センターの開設について



大室山を中心とした
ジオサイト
（静岡大学教授小山真氏提供）

子育て支援の観点から、乳幼児医療費助成制度における対象年齢の引き上げについて



公明党
鳥居康子議員

現在、本市において、二歳未満までを対象に、保険診療に係る通院医療費の自己負担を無料とし、さらに、二歳以上未就学児までを対象に、月四回までを限度に、通院一回につき五〇〇円（一部負担額が五〇〇円未満の場合はその額）を自己負担としている。

静岡県内の約半数の市町においては、未就学児までを対象としており、さらには、小学六年生までを対象とした先進的自治体もある。

本市と他市との乳幼児医療費助成状況を比較して、おかれていると思われる本市であるが、私自身過去の定例会において、乳幼児医療費助成に関する質問をし

た経過がある。当局からは、その際、財源確保が困難であるとする答弁、静岡県へ補助制度の拡充を要望する旨の答弁がされるにとどまり、現在まで乳幼児医療費助成の対象年齢の拡充には至っていない。

このたび、静岡県において、平成二四年度中にこども通院医療費助成の対象年齢を中学三年生まで拡充する方針が示された。

県の方針に合わせて、本市においても、こども医療費助成の対象年齢を引き上げて、子供に対する医療費助成制度の充実を図るべきではないかと考えるが、いかがか。

県の制度拡充に合わせて対象年齢引き上げの準備を進めていきたい

市長

静岡県のこども医療費助成制度が、平成二四年一〇月診療分から、通院医療費助成の対象年齢を現行の未就学児から中学三年生までへ拡充される予定であり、



乳幼児医療費受給者証

本市においても、静岡県のこども医療費助成制度に合わせて、平成二四年一〇月診療分から、通院医療費助成の対象年齢を中学三年生まで拡充する方向で準備を進めていきたい。

『その他の質問項目』

■インフルエンザ予防接種助成対象拡充について

■買い物支援者に対する市の支援策について

■医療費負担軽減の観点から、ジェネリック医薬品の普及の推進について

■防災について

・防災情報が届かない地域や市民への対応について
・女性の視点を取り入れた防災計画の検討について

大型艦船が接岸できる港湾整備は非常に重要であると考え、白石マリントウンの事業計画も含め、将来のビジョンを伺う



民主党・刷新の会
四宮和彦議員

伊東沖は、初島近辺まで比較的浅くなっており、大型艦船がアンカーリング可能で、停泊に適した海底地形となっている。

大型客船飛鳥Ⅱを初め、年間を通じて海上自衛隊の大型護衛艦が沖合に停泊するなど、一万トクラスの大型艦船が沖合に停泊可能である一方、伊東港などの港には大型艦船が接岸できないのが現状である。

海岸景観を船のある風景として考えれば、伊東沖に停泊する大型艦船の一つの観光資源として見ることができ、さらには、防災上の観点からも、大型艦船が接岸できる港湾整備は非常に

重要であると考えられる。伊東港はしゅんせつしても水深七m程度で、大型艦船の接岸は難しいと思われるが、白石マリントウンであれば、接岸可能な港の整備ができると思われる。

これらのことから、観光の視点、防災上の視点を含めた上で、大型艦船が接岸可能な港湾整備が必要であると思われるが、第一次事業計画が完了した後、一向に進展する気配のない白石マリントウンの将来の事業計画の可能性も含め、港湾整備のビジョンを伺う。

大変重要なものと考えており、国・県に対して粘り強く要望していく

市長

伊東沖に多くの大型船が停泊している状況を踏まえれば、これらの船が直接接岸できる港湾整備は、重要な観光資源となり、本市の産業振興や経済活性化にもつながるものと認識している。

また、大地震等の災害発生時における市民や来誘客

の避難や移動、緊急物資の輸送等においては、海路が重要な手段ともなり、大型船の接岸可能な港湾整備は防災面から大変重要なものと考えている。

過去には、震災後の瓦れきを埋め立て、大型船が接岸できる整備構想を国・県に提案したが、最終的には財務当局の理解が得られず立ち消えになっていたため、港湾整備について引き続き国・県に対して、粘り強く要望していく。

『その他の質問項目』

■伊東市の地域防災計画について

四点

■海岸景観とその整備について

三点



大型船が停泊する伊東港沖

オレンジビーチマラソンにおける安全対策として、バイパスの上下四車線を利用した開催について



正風改革クラブ
佐山 正議員

全国的なマラソンブームの中で開催された昨年のオレンジビーチマラソンでは、県外からも多くの参加者があり、盛況な大会となった。「健康回復都市」を全国に発信する中で進められてきた事業でもあり、この参加者が、伊東温泉の魅力を満喫し、リピーターとなり、観光産業の活性化にもつながっていく、そのような大会となることを切望しているところである。

しかし、現在の競技運営等を見たときに、スタート時の混雑は特にひどく、転倒などの重大な事故が、いつ発生してもおかしくない状況であり、不安を感じて

いる。この対策として、会場であるバイパスの上下四車線を利用して開催する考えはあるか伺う。

関係団体や地域住民等と協議する中で、運営方法を研究していきたい

市長

オレンジビーチマラソンは、「伊東市健康保養地づくり事業計画」において、本市のシンボル事業に位置づけられており、重要なイベントであると認識している。

コースについては、道路使用許可を得てバイパスの下り二車線を利用しているが、幅員も限られており、安全性を考慮し、部門ごとに定員枠を設けている。

上下四車線を利用することにより、安全性の確保や参加者をふやす有効な手段になり得ると考えるが、交通規制に伴い、市街地における交通渋滞が発生することが考えられ、地域住民や来遊客への影響も懸念されることから、関係団体や地域住民等と協議する中で、

運営方法を研究していきたい。

『その他の質問項目』

■オレンジビーチマラソンに関し、スポーツ振興等の観点からの位置づけについて、ほか一点

■スポーツ振興に関し、小室山テニスコートの高齢者への減免措置及び照明施設設置について、ほか二点

■市道三の原線改良工事に関連し、国道一三五号との交差点改良工事の進捗状況・整備概要について

■市道長畑道上線の安全対策について

■小学校の学習実態に関し、九九算の習得状況の現状について、ほか一点



オレンジビーチマラソン（平成23年）

市役所内におけるワークシェアリングの実施に対する考えを伺う



輝21
三枝 誠次 議員

三島公共職業安定所伊東出張所管内における有効求人倍率は、六月期には過去最低の〇・四〇倍にまで落ち込んでおり、東日本大震災の影響もあるかと推察されるが、この事態は異常事態であり、非常事態である。本市においては、平成二一年度からの三力年において、緊急雇用施策を実施し、この施策により効果を上げているところであるが、本市の有効求人倍率からして、雇用状況が良好であるとはとても言えない状況にある。そこで、本市市役所内においてワークシェアリングを実施し、雇用を一層拡大させる必要があると考えるが、いかがか、考えを伺う。

あわせて、臨時職員の給与について、ワークシェアリングの立場からの考えを伺う。

今後の公務員制度改革等も含め、他の自治体の状況を調査するなど、慎重に検討したい

市長

市役所内におけるワークシェアリングについては、その導入により、雇用の増加につながる効果はあると考えるが、労働時間の管理や給料体系をどのようにするか等の問題点もあり、今後の公務員制度改革等も含め、他の自治体の状況を調査するなど、慎重に検討していきたい。

臨時職員を含む職員の給与のあり方については、私が市長に就任して以来、伊東再生を最重要課題として掲げ、改革の一つである行財政改革を推進し、職員人件費の削減や定員の適正化等により、簡素で効率的な行政運営に取り組んできた。この間、職員に理解を求

める中、給与構造改革を行ったことにより、職員の平均年収は、平成一七年分に比べ、一四万三〇〇〇円の減額となっている。

また、臨時職員の賃金については、市内経済の状況、県下の臨時職員の状況等を総合的に検討し、平成二二年度から二年間の経過措置を設け、年齢別賃金体系から職種別賃金体系へ移行した結果、年齢に係らず、幅広い年齢層から人材を確保することが可能となり、雇用の拡大につながっているものと考えている。

『その他の質問項目』

■債権管理条例の制定や一元管理など先進的な債権管理手法の導入について



ハローワーク伊東

災害や火災に備えた水の確保に係る施設整備の状況及び消防団員へ貸与する被服等の状況について伺う



正風改革クラブ
浜田修一郎議員

災害発生時の避難生活に

おいて、飲料水はもとより、洗顔用、トイレ用等にも水は必要不可欠であり、火災発生時における防火用水の確保は重要であることから、広域避難場所、避難所における耐震防火水槽の設置状況及び防災用の水ろ過器の設置状況について伺う。

また、消防団員は、生業を持ちながら活動を行うため、団員の確保に苦慮しており、活動しやすい環境を整えるのは行政の責務であると考え、現在、一着の活動服を年間を通じて着用しており、夏季の訓練では非常に暑く、大変であることから、夏季用活動服を

貸与してはどうか伺う。

さらに、緊急時には、仕事中等、災害現場に直接駆けつけることも多いため、緊急車両積載用の防火服を貸与してはどうか伺う。

耐震性防火水槽は、大震災用の消防水利として設置しており、東日本大震災の教訓から、避難生活にも活用できるものと考えている

市長

主な広域避難場所には、耐震性防火水槽やプールが設置されており、そのほかの避難所への設置については、その有効性を検証し、検討していく。

災害用の水ろ過器については、市内四カ所の防災センターにエンジン式五〇基、手動式五基が配備されているが、現在、配置の見直しをしており、小・中・高各学校や地域のプールに設置されている倉庫に分散配置する計画を進めている。

被服、装備については、消防活動において、安全を確保することが第一であり、



耐震性防火水槽（タンク据えつけ現場）

夏用ということではなく、年次計画を立て服制基準に準じた活動服の更新を行うとともに、防火衣や手袋、ヘルメット等についても貸与を行っており、これらの装備品についても、消防団と協議し、充実を図っていく。

『その他の質問項目』

■駿東伊豆地区における消防救急広域化の進捗状況について

■伊東市地域防災計画について

■良好な住環境を保つための空き家対策について

■各保育園、幼稚園、小学校への防災用ヘルメットの配付について

■宇佐美中学校のプールの再開放について

市道広野・宮川線の全線舗装
改修について、また市道下方
海立線と市道宮川・桜ヶ丘線
の交差点の安全対策について



民主党・刷新の会
浅田 良弘 議員

市道広野・宮川線は、個別工事やガス管の改修により路面に傾斜や凹凸などが生じ、道路環境としては最悪である。

場所によっては、大型車両が走行するたびに道路側の家屋に震動が起き、また、雨天時には水たまりができやすく、歩行者に水しぶきが振りかかるような状況で、不便かつ危険である。

また、市道下方・海立線と市道広野・宮川線の交差点は、私の知る限り八月から九〇日間で六回の交通事故が発生しており、近隣住民の中には「魔の十字路」と呼ぶ方がいるほどである。日夜危険と背中合わせの

状況に対し、早急な改善なくしては、住民の不安は募るばかりである。

地域住民の不安要素を取り除くべく、主たる関係機関に働きかけ、道路環境の改善、検証の必要性について本市の考えを伺う。

地域の皆様の安心・安全確保のため、研究・検討していく

市長

市道広野・宮川線は、区画整理事業において水田を埋めた土地であるため、軟弱地盤である上、舗装面の劣化等により、部分的に補修した箇所等において一部路面が継ぎはぎ状になっている。

しかしながら、全線一二〇〇mを全面舗装改修するには、地盤の入れ替え工事を要し、かつ、工事期間も長くなり、交通に支障を来すおそれもあることから、舗装の劣化が著しい箇所は、埋設工事と同時に、舗装改修を行う予定である。

今後、現場を確認し、財

政状況を見の中で決定してまいりたい。

また、市道下方・海立線と市道広野・宮川線の交差点については、鎌田区から要望の「交差点内の四面一時停止」について、静岡県公安委員会に問い合わせたところ、現状では実現が困難であるとの回答を得ているが、地域の皆様の安心・安全確保のため、改めて研究・検討していく。

『その他の質問項目』

■防災対策に関する現状と課題について 六点

■指定校変更許可基準の事由に、児童・生徒本人の意見や地域の声などを加え、重視すべきでは



自治体経営における「住民自治」はいかにあるべきか市長の信念を質す



森 篤 議員
(会派に所属していない)

福沢諭吉は、「一身の独立あつて一国の独立あり」と言っている。今日の自治体も同様だと考える。一〇年前の「伊東市自治基本条例(案)」の議員発議に加わった者の一人として、当時、自治体経営について、それなりの危機感をもって、また先見性をもって発議したものであるが、今日の新たな時代状況の中で、改めて住民自治の重要性を認識しているところである。

また、住民自治は、単に法律、条例をつくれればそれでよいということではなく、住民自身のためまめ訓練と改善が必要になるのである。自治体の経営において、経営に住民自身がいかにか

かわるかは極めて重要であり、折しも地域主権の進展に係る法整備が進む中で、「住民自治」はいかにあるべきか、市長の信念を質す。市民と行政それぞれの役割と責任を持ってまちづくりに取り組みべし

市長

現在の行政を取り巻く環境は、景気の低迷による深刻な税収減、高齢化の進行に伴う行政需要の拡大などにより、行政サービスが市役所だけで担うことができなくなる時代が到来しようとしており、「住民自治」は、今後の市政運営において、極めて重要な要素であると認識している。

このような認識のもと、第四次総合計画では、基本理念として「自立と共生」、「参画と協働」を掲げたが、その趣旨は、地域での支え合いを大切にしつつ、市民一人一人が主体性をもって、みずからの生活や地域を見つめ直し、市民と行政がそれぞれの役割と責任を持つ

て、まちづくりに取り組むことにあり、この考え方が、これからの住民自治のあり方であると考えている。

今後も、企画段階から政策推進に至るさまざまな過程で、積極的に市政情報の提供を図り、市民の意見を伺い、市政に反映させてまいりたい。

『その他の質問項目』

■自治体の骨格となる「文化政策」はいかにあるべきと考えるか

■子供たちの健全育成に専念すべく、教育委員会の持つ職務権限のうち、スポーツ及び文化に関することを市長に移すことについて



伊東市自治基本条例は平成二三年九月定例会に議員発議で上程された

放射能汚染から市民、特に子供を守る対策が必要と考えるがいかがか



重岡秀子議員
(会派に所属していない)

福島原発事故はいまだ収束せず、放射性物質は放出し続けており、地形的にホットスポットの存在が懸念される本市においても、初めて直面する問題として、独自の対策が必要である。

放射能汚染に対しては、市内小・中学校における測定や給食の食材への対応のほか、市民や観光客を守るという観点からも、検討課題が多々あることから、関係各課が連携し、情報の共有ができる放射能対策会議等の体制づくりが必要であると考えているが、いかがか。

また、放射線被曝は小さな子供ほど影響が及びやすいことから、子供にかかわる施設については、定期的

な計測と公表を行うとともに、学校給食の食材に係る情報等に関しても、統一した情報を保護者に広報する必要があると考えているが、いかがか。

放射能の測定の定期化を図り、給食食材の情報などの広報にも努めていきたい

市長

放射能対策にかかわる体制づくりについては、現在放射能に関する情報を環境課でとりまとめており、放射性物質の濃度や空間線量率の検査測定結果を、市のホームページで一括して閲覧できるよう整備し、さらに、環境課を中心に市内で統一した対策を行っている。

空間線量率については、「放射線測定に関するガイドライン」を基本に地表1cmでの測定を行うほか、雨水による堆積物についても可能な範囲で除去していくなど、体制の整備にこだわることなく、柔軟かつ迅速に対応してまいりたい。

子供にかかわる施設につ

いては、定期的に計測し、市のホームページに掲載する予定であり、給食の食材については、放射能の影響のない産地の食品を選択し、保護者へは「たより」等でお知らせするなど、今後でもできる限りの広報に努めることを考えている。

『その他の質問項目』

■近隣自治体の状況にかんがみ、子供の医療費助成を中学卒業まで拡充し、子育て支援をすべきと考えるがいかがか

■一人一人を大切に、安定した学校教育の充実のために、学級支援員や学校図書館司書などの大幅増員が必要と考えるがいかがか



土壌放射性物質調査

首長による議員定数の削減が提案されている中、市長の考えを伺う



掬川武義議員
(会派に所属していない)

平成二三年九月の市議会議員選挙を通じて、議員定数削減は、多くの市民が関心を持っている問題の一つであることを強く感じたところである。

任期が開始したばかりの定例会の一般質問の中で、市長に対し議員定数削減の考え方を伺うことは、余りないケースであると思う。

私は、過去二回、議員発議による議員定数削減に参加した。

しかし、議会側において削減案を提出するまでには、たび重なる会議の結果、最後まで一致点は見出せずに採決をする、この一連の作業は余りにも時間がかかりすぎ、結果として無駄な時

間が多いと感じた。

そこで、市長が議員にも削減を求めるとするならば、市長提出議案とすることが望ましいと思う。

人事院勧告による公務員の給与の引き下げが予定されている今、これからの財政を考えたとき、議員定数の削減は時代の流れと考えなければならぬ。

そして、職員数の見直しと人件費の削減をしていくことが当然必要と考えるが、市長の考えを伺う。

総合的・多角的な見地から必要数を判断する必要があると考える

市長

議員定数の見直しや議員報酬の改定については、財政状況や近隣市町とのバランスなど、さまざまな視点から勘案し、全国的に実施されている。

言うまでもなく、議会は、間接民主制に欠かすことのできない独立した機関であり、議員は、住民の代表者として社会情勢の変化を

確に把握する必要があることから、市議会議員の定数については、総合的・多角的な見地から、その必要数を判断する必要があると考える。

『その他の質問項目』

■経済効果を上げるため、光ケーブルインターネットが市内全域で使用できるように働きかけをすべきと思うが、市長の考えを伺う

■県指定の有形民俗文化財「富戸魚見小屋」の改修、門脇灯台の展望台内部の修理、さらに城ヶ崎一帯の整備について伺う

■太陽光発電の推進について、今までの対応と、今後の計画について伺う



伊東市議会議場

◆委員会・議員個人調査活動の実績◆

平成23年9月30日議員任期開始から平成23年12月定例会開会までの間における調査活動の内容を掲載します。

委員会・議員	月日	視察先	視察項目
佐々木 清 (正風改革クラブ)	10.17 ～10.21	滋賀県 大津市 全国市町村国際文化研修所	市町村議会議員特別研修(地方行財政コース)
鳥居康子／楠田一男 長沢 正 (公明党)	10.22	東京都 千代田区 剛堂会館ビル	地域科学研究会 議員の定数・報酬と役割のあり方
佐々木 清 (正風改革クラブ)	11.1 ～11.2	千葉県 千葉市 市町村職員中央研修所	平成23年度 第2回「市町村議会議員特別セミナー」
常任観光建設委員会	11.7 ～11.9	兵庫県 豊岡市 山陰海岸ジオパーク推進協議会事務局 兵庫県 香美町 鳥取砂丘ジオパークセンター	山陰海岸ジオパークについて
常任福祉文教委員会	11.9 ～11.11	佐賀県 佐賀県 佐賀市 福岡県 大野城市	先進的 I C T 利活用教育推進事業 特定健診受診率向上に向けた取り組みについて 買い物代行「ごきげんお届け便事業」について
常任総務委員会	11.16 ～11.18	兵庫県 三田市 兵庫県 姫路市 兵庫県 芦屋市	都市経営システム(行財政改革)の取り組みについて ごみ減量化、再資源化の取り組みについて 防災対策の取り組みについて 債権管理の取り組みについて



海から見るジオサイト (説明を受ける委員ら)

- 10月28日 常任観光建設委員会協議会
31日 議会報編集委員会
11月14日 常任総務委員会協議会
24日 常任観光建設委員会所管事務調査
(海から見るジオサイト)
25日 議会運営委員会
29日 議会運営委員会

※平成23年10月11日臨時会開会後平成23年12月定例会開会まで

閉会中の
議会活動

平成23年

常任委員会だより

～常任委員会審査の中から～

- ◆詳細は、市議会会議録の委員会審査報告をごらんください。
- ◆市議会会議録は、市役所、図書館、各コミュニティセンターにあるほか、ホームページでもごらんになれます。

総務委員会

問

機構改革に伴う財政的に期待する効果を伺う。

答

職員数の減少に伴い人件費が減る効果はあるものの、個人に係る業務量は増加することになり、業務の質を落とさないような配慮が必要となることから、職員一人一人が事務事業の改善意識を持っていくことが重要であると考えている。

問

財政調整基金の残高の推移を踏まえ、本市の財政運営を伺う。

答

平成16年度には4,000万円程度まで落ち込んだが、本年度末には15億円を超える見込みであることから、財政状況が好転しているのは明らかである。

しかしながら、歳計現金については厳しい状況が続く中、新病院の建設や環境美化センターの更新改良整備を控えており、ほかの用途に充てるのは難しいと考えている。



新市民病院建設現場

観光建設委員会

問

城ヶ崎海岸橋立吊橋景観整備工事の内容を伺う。

答

つり橋の床板、ワイヤー等の交換、支塔の塗装工事に加え、アラミド繊維シート補強工法により支塔の強度を高める工事を実施する。



城ヶ崎橋立吊橋

問

特別誘客宣伝事業として委託する新事業の内容を伺う。

答

宿泊客の誘致と芸妓文化の維持向上を目的に、宿泊と芸妓宴会をセットにした商品を新たに開発し、平成24年1月10日から3月31日までの間実施する事業で、通常より安価で芸妓宴会を体験できる。

問

公園整備管理費で購入する備品を伺う。

答

小室山総合グラウンドの少年用サッカーゴールである。

福祉文教委員会

問

生活保護費に関し、稼働可能年齢への就労指導に対する考え方について伺う。

答

ハローワークと連携し、生活保護を受けずに自立できるよう指導している。

また、緊急経済雇用対策により、市の臨時職員として採用するほか、清掃作業に従事するなど、就労により収入増となり、扶助費減額に一定の効果が出ている。

問

教育機関等における放射性物質の測定について伺う。

答

園児・児童・生徒が利用するすべての施設を対象に、1カ月に1回放射線量を測定し、公表していく。

本市全体の問題であるとの認識に立ち、測定器をふやし、自治会や区などにも測定をお願いするほか、放射線量に係る詳細な調査を進めるとともに、結果を迅速に公表していく。



放射線量測定器

議 場 見 学



学級目標 南中学校 8組
仲良く、笑顔で協力し合う

池小学校（一〇月二五日）と大池小学校（同二八日）の三年生、南中学校八組（同三一日）の児童・生徒が、議場見学に訪れました。

説明の際、自由に着席してもらったところ、一番人気は議長席でした。

説明後の質疑応答には、議長席に座った議長役の児童・生徒から質問者を指名してもらいました。

学級目標 大池小3年3組
元気・やる気・ゆう気



学級目標 きづくすんで
糾 ずすなかま
大池小3年2組



学級目標 一 流
大池小3年1組



学級目標 池小学校
ゆう気とやさしい心をもとう。

11月に転入生2人が加わり、現在は13人で元気いっぱいに過ごしています。



… 主な質問 …

問 正副議長がともに欠けてしまったら、どうするのですか。

答 そのときの会議に出席している議員の中で最年長者が臨時議長を務め、議長選挙を行います。

問 採決の際、賛成と反対が同数となった場合、どうなるのですか。

答 出席議員の過半数により決定する議案などにおいて賛成と反対が同数のときは、議長の決するところとされています。（議長の裁決権と言います。）

編 集 後 記

昨年は、東日本大震災により、被災地はもとより日本全土にわたり大きな影響を受けましたが、本年は穏やかな年となることを祈念いたします。

折しも辰年。昇竜のごとく景気も人心も活気づくことを願うとともに、議会における一層活発な論議に努め、充実した紙面づくりに尽力してまいります。

本年もよろしくお願い申し上げます。（委員長）

議会報編集委員会

委員長 三枝 誠次
副委員長 榎本 元彦
委員 長 沢 正彦
杉 四 宮 和 彦
本 一 彦

市議会に関するご意見

ご質問は議会事務局へ
伊東市大原二丁目一番一号
TEL (三三) 一九八一
FAX (三八) 六九一六

3月定例会の予定

（いずれも午前10時から始まります。）

2月	23・24日	本会議（施政方針・議案説明）
	2・5日	本会議（代表質問）
	6日	本会議（一般質問）
3月	7日	本会議（一般質問・議案審議）
	8・9日	本会議（議案審議）
	12・13日	常任観光建設委員会 常任福祉文教委員会
	14・15日	常任総務委員会
	22日	本会議（最終日）

※ 2月中旬の議会運営委員会において正式に決定します。